

平成 24 年度事務事業評価調書

事業コード	01040101	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行	<input type="checkbox"/> 経常	
事務事業名	水道老朽管更新事業	担当部署名	上下水道課上下水道グループ		
		作成責任者職氏名	課長 山本 弘	内線	410
第4次総合計画体系	(基本柱)	(基本施策)	(細施策)		
	01安全・安心・環境	04水の安定供給	01水道施設の整備・補強		
実施期間	<input type="checkbox"/> 単年 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (年度～ 年度)		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助等	
根拠法令等	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	法令等の名称	水道法、千早赤阪村水道事業給水条例他	義務付け	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

I 事務事業の概要<Plan>

<p>(1)事務事業の目的及び内容</p> <p>①目的 安全で安定した水の供給を図る。</p> <p>②内容 漏水防止や震災対策の観点から、老朽管(水管橋)更新事業を行う。</p>	<p>(2)対象(誰を対象とするのか)</p> <p>村民</p>
<p>(3)期待される効果(本事業によって対象者をどのような状態にしたいのか)</p> <p>・漏水等の水道事故防止 ・濁り水対策</p>	<p>(4)事務事業を進める上での課題や問題</p> <p>・財政的負担</p>

II 事務事業の実施<Do>

(1)事務事業の事業費及びコスト費								
		22 年度 実績	23 年度		24 年度 事業費(見込)	25 年度 事業費(見込)		
			事業費(予算)	実績(見込)				
事業費(見込含む)(千円)(A)		10,615	10,000	5,243	0	24,000		
財 源 内 訳	国庫支出金					4,000		
	府支出金							
	分担金・負担金	6,859						
	使用料・手数料							
	起債			5,000		17,000		
	その他の特財							
	一般財源	3,756	10,000	243		3,000		
人 件 費	一般職員所要人員(人)(B)	2.00	1.50	1.50		1.50		
	一般職員人件費(平均給与×(B))(千円)(C)	12,436	9,327	9,327	0	9,327		
総コスト費(千円)(A+C)		23,051	19,327	14,570	0	33,327		
人口あたりコスト(円)		3,740	3,136	2,364	0	5,408		
(2)成果指標等								
番号	指標区分	指標名称	単位	23 年度			24 年度 目標値	25 年度 目標値
				目標値	実績値	達成率(%)		
①	目標指標	更新老朽管	m	100	79.6	80%	—	370
②	目標指標							
③	目標指標							

○目標指標評価値(達成率平均値) 80% / 1 = 80% (A)

III 事務事業の評価<Check>

(1)成果の自己検証		
評価項目	評価結果	評価の理由及びその考え方
①妥当性 ※施策の目的が村の政策体系に貢献しているか	4 4. 大いに貢献している 3. 概ね貢献している 2. あまり貢献していない 1. 貢献していない	老朽管の解消により、給水エリアのループ化が可能となった
②有効性 ※期待された効果が得られているか	4 4. 効果がある 3. 一応の効果がある 2. あまり効果がない 1. 効果がない	老朽管を更新工事の施工により、濁り水対策がなされている
③効率性 ※効率的に進められているか	4 4. 非常に効率は良い 3. 概ね効率は良い 2. あまり効率は良くない 1. 効率は良くない	下水道工事との連携がされている
④公平性 ※受益や負担が公平になっているか	4 4. 公平である 3. 概ね公平である 2. 少し偏りがある 1. 公平ではない	特に偏って工事を施工していない、今年度は違う地区を施工予定。また、下水道と連携をとって住民負担の軽減に努めた
○事務事業評価値 (①～④の合計/16)	16 / 16	100% (B)

目標指標評価値 (A)	事務事業評価値 (B)	総合評価値 (A)+(B)/2	評価ランク(改善の目安)
80%	100%	90%	a

a: 90%以上(現状維持又は拡充) d: 30~49%(休止・廃止又は縮小)
b: 70~89%(見直し又は現状維持) e: 30%未満(休止・廃止)
c: 50~69%(縮小又は見直し改善)

IV 事務事業改善の方向性<Action>

(1)改善の方向性	
①改善の方向性(自己評価)	← A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
B	
②改善の方向性の理由、改善する上での具体的な改善策や課題等	
<p>水道事業については、村民生活のライフラインであり、必要不可欠な事業である。今後も安定的かつ持続的な水の供給を図るためにも計画的な老朽管の更新事業が必要である。ただし、更新においては、継続的な事業費が必要であるため財政的負担の確保が懸念される。</p>	

V 事務事業評価結果(担当者は記入しないでください。)

(1)政策担当結果	
水道老朽管更新については、過去に整備された管の老朽化が進んでいくことから、村民への安定的な水の供給のためにも継続した老朽管更新事業が不可欠である。	B A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
(2)第三者による有識者会議結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業としては必要不可欠と考えるが、いかに維持管理のための経費を捻出するのが問題である。経費削減、料金値上げ、一般会計の繰出しなどを総合的に検討し、財源確保を図るべきである。 ・将来の水道需要の落ち込みを前提に補修や改修などの基本計画(年次計画)を策定する。 ・水源確保は大阪府企業団にお願いしても岩井谷の水源涵養を図ることも重要である。 ・繰出し基準を明確にすべきである。水道料金値上げを前提として村民に十分説明ができるようにすべきである。 ・老朽管更新事業の推進のためにも財源の確保が大きな問題である。 ・水道は電気と共に村民にとっては、なくてはならないライフラインであるので、その更新は継続されなければならない。そのための水道料金の値上げはいたしかたないと思う。 	B A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
(3)行政経営戦略会議結果	
水道老朽管更新については、過去に整備された管の老朽化が進んでいくことから、村民への安定的な水の供給のためにも継続した老朽管更新事業が不可欠である。また外部評価の意見を踏まえ、さらに充実を図る。	B A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止

